

問1 三重県の志摩半島や岩手県の三陸海岸南部に見られる、起伏の多い山地が沈水して形成された、複雑に入り組んだ海岸地形を何と呼びますか。 (2020年 高知公立入試 類似)

1. リアス海岸 2. 砂浜海岸 3. 干拓地 4. 三角州

問2 山地から平地や盆地へ川が流れ出る場所で見られる、川の流が緩やかになることで運搬された土砂が堆積して形成された扇形の地形を何といいますか。 (2021年 新潟県公立入試 類似)

1. 扇状地 2. 三角州 3. 台地 4. 氾濫原

問3 日本アルプスと、その周辺の地質的な特徴について説明した次の文章のうち、正しい内容を述べているものを選択してください。 (2023年 高知公立入試 類似)

1. 飛騨・木曾・赤石の3山脈の東側には、日本列島を東西に分ける大きな溝状の地形であるフォッサマグナが位置している。 2. 飛騨・木曾・赤石の3山脈は、東北地方から関東地方にかけて南北に連なる日本最大の山脈である。 3. 飛騨山脈は、北海道の中央を南北に走る険しい山脈であり、大規模な畑作が行われる十勝平野の西側に位置している。 4. 木曾山脈と赤石山脈の間には、世界で最も深い海溝の一つである日本海溝が位置している。

問4 新潟県上越市などの日本海側に位置する都市で見られる、降水量の推移の特徴を説明したものと最も適切なものを選びなさい。 (2018年 大分県公立入試 類似)

1. 冬に北西の季節風の影響を受けるため、1月や12月の降水量が年間300mmを超えるなど、夏よりも冬に降水量が多い。 2. 季節風が山地に遮られるため、年間を通して降水量が比較的に少なく、1,000mmを下回ることもある。 3. 夏は太平洋からの季節風の影響で降水量が多くなるが、冬は乾燥した晴天の日が続く。 4. 冬の気温が氷点下になるほど非常に低く、年間を通して降水量は控えめである。

問5 フィリピンから北上してくる黒潮(日本海流)は、日本列島の南西方向でその一部が分流します。この分流が、長崎県と朝鮮半島の間にある海峡を抜けて日本海へ流入した後の名称は何ですか。 (2018年 香川公立入試 類似)

1. 対馬海流 2. リマン海流 3. 親潮 4. 千島海流

問6 三重県の志摩半島付近に代表されるような、複雑に海岸線が入り組んだ地形について、その名称と産業上の特徴を説明したものと最も適切なものはどれか。 (2017年 愛媛公立入試 類似)

1. リアス海岸と呼ばれ、入江の中は波が穏やかであるため真珠やカキなどの養殖業に適している。 2. 扇状地と呼ばれ、水はけが良いため果樹園や畑として利用されることが多い。 3. 三角州と呼ばれ、土地が平坦で水分が豊富であるため稲作が盛んに行われている。 4. 砂丘と呼ばれ、強い風を利用した風力発電や観光地としての利用が中心となっている。

問7 日本海側の地域において、冬の降水(降雪)量が多くなるメカニズムを説明したものと、最も適切なものはどれか。 (2023年 新潟県公立入試 類似)

1. 冬に北西から吹く季節風が、日本海を渡る際に水蒸気を蓄え、山脈にぶつかって上昇することで雪を降らせる。 2. 冬に南東から吹く季節風が、太平洋を渡る際に水蒸気を蓄え、山脈を越えた後の日本海側で乾燥した空気を送る。 3. 赤道付近で発生した低気圧が日本海を北上し、暖かく湿った空気を山脈にぶつけることで大量の雪を降らせる。 4. 一年中吹く偏西風が、日本海流(黒潮)によって温められた水蒸気を直接運び込み、冬の山沿いに雨をもたらす。

問8 砂丘地帯において、地点Xから地点Yを結ぶ直線上の地形の変化を調べました。地点X側では等高線の間隔が非常に密集しており、標高60m付近まで一気に上昇した後、地点Y側に向かって等高線の間隔が広がっている場合、この区間の断面図の様子を説明したものと最も適切なものはどれですか。 (2021年 熊本県公立入試 類似)

1. 地点X付近は急な上り斜面となっており、標高60mの山頂部を過ぎると、地点Yにかけてなだらかな地形が続いている。 2. 地点X付近は平坦な地形で、地点Yに近づくにつれて等高線が密集し、標高60mを超える急峻な崖になっている。 3. 地点Xから地点Yまで等間隔で標高が上がっており、地点Yにおいて砂丘の最も高い地点に到達している。 4. 地点X付近は標高が低く、標高60mに達するまではなだらかな傾斜が続き、頂上付近で急激に標高が下がっている。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 リアス海岸	山地の谷の部分が海に沈んだり、海面が上昇したりすることで形成される複雑な海岸線をリアス海岸と呼びます。かつての尾根の部分が岬に、谷の部分が湾になるため、出入りが非常に激しい形状となります。三重県の志摩半島はその代表例として知られています。
問2	答え 1 扇状地	山間部から平地に出る地点は、急に傾斜が緩やかになる場所です。ここで川が土砂を運ぶ力を失うことで、山地を出口とする扇のような形の堆積地形が作られます。山梨県の甲府盆地などは、この地形が発達していることで有名です。
問3	答え 1 飛騨・木曾・赤石の3山脈の東側には、日本列島を東西に分ける大きな溝状の地形であるフォッサマグナが位置している。	日本アルプス（飛騨・木曾・赤石山脈）は「日本の屋根」とも呼ばれ、その東側には地質学的な大きな境界線であるフォッサマグナ（大地溝帯）が存在します。飛騨山脈は中部地方（本州中央部）に位置しており、東北地方の奥羽山脈や、北海道の日高山脈とは位置が異なります。また、海溝は海底の地形であるため、山脈の間に位置することはありません。
問4	答え 1 冬に北西の季節風の影響を受けるため、1月や12月の降水量が月間300mmを超えるなど、夏よりも冬に降水量が多い。	日本海側の気候は、冬にシベリア気団から吹き出す北西の季節風が、暖流の流れる日本海の上空を通る際に水蒸気を蓄えることで形成されます。この湿った空気が日本列島の山脈にぶつかることで、日本海側には大雪や雨がもたらされ、太平洋側とは対照的に冬の降水量が非常に多くなるという特徴があります。
問5	答え 1 対馬海流	日本付近の海流は、太平洋側を北上する「黒潮」と、その一部が東シナ海付近で分かれ、対馬海峡を通過して日本海に入る「対馬海流」という2つの暖流が特徴的です。対馬海流は日本海沿岸の気候を穏やかにし、北陸地方などの降雪にも大きな影響を与えています。
問6	答え 1 リアス海岸と呼ばれ、入江の中は波が穏やかであるため真珠やカキなどの養殖業に適している。	三重県の志摩半島や岩手県の三陸海岸南部に見られるような、山地が沈水してできた複雑な凹凸を持つ海岸線をリアス海岸と呼びます。この地形は入り組んだ入江によって外海からの波が遮られるため、波が非常に穏やかになるという特徴があります。そのため、真珠やカキ、ワカメなどの養殖いかだを設置するのに非常に適した環境となっており、古くから水産業が発展してきました。扇状地や三角州は川の流れによって土砂が堆積してできた地形で、海岸線の形状を指す用語ではありません。
問7	答え 1 冬に北西から吹く季節風が、日本海を渡る際に水蒸気を蓄え、山脈にぶつかって上昇することで雪を降らせる。	日本の冬は、シベリア高気圧から吹き出す北西の季節風の影響を強く受けます。この季節風が比較的暖かい日本海の上を通過する際、大量の水蒸気を吸収します。水分を含んだ湿った空気が日本の背骨にあたる奥羽山脈や三国山脈などの高い山々にぶつかって上昇し、冷却されることで雪となって降ります。そのため、山脈の西側に位置する日本海側の地域では、冬の降水量が非常に多くなるという特徴があります。
問8	答え 1 地点X付近は急な上り斜面となっており、標高60mの山頂部を過ぎると、地点Yにかけてなだらかな地形が続いている。	地形図において等高線の間隔が狭い（密集している）場所は傾斜が急であることを示し、間隔が広い場所は傾斜が緩やかであることを示します。地点X側で等高線が密集し標高が上がっていることから、そこには急斜面が存在します。その後、地点Y側で間隔が広がっているため、頂上を過ぎた後はなだらかな起伏になっていると判断できます。